

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 30 年度農業農村工学会大会講演会の WEB 投稿受付けを開始しました 投稿受付締切 4 月 13 日	76
○平成 30 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について (再) 申請締切 4 月 13 日	76
○PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良 2018 (PAWEES & INWEPF International Conference 2018 Nara, Japan) の発表論文募集について 発表申込締切 3 月 31 日	77
○学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について (再) 応募締切 3 月 30 日	77
○動画募集中! こりゃ映像! 2018 —ミニ動画コンテスト— 応募締切 7 月 31 日	78
○学生会員入会時の特典について	78
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	78
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	79
○平成 31 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	79
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	80
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	82
○日本混相流学会混相流シンポジウム 2018 の開催について 発表申込締切 3 月 16 日	83
○第 17 回世界湖沼会議 (いばらき霞ヶ浦 2018) の開催について 発表申込締切 4 月 20 日	83
農業農村工学会論文集内容紹介	84
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧	85
受入れ図書	86
文献目録	86
学会記事	89

会員のみなさまへ

- 4 月には、転勤・卒業などで多くの会員の方々が異動されます。
引き続き学会誌を正しくお届けするために、転職・転居などで個人情報に変更のあった方は、suido@jsidre.or.jp までご連絡ください。また、学会ホームページの会員専用サイトからも会員登録情報の確認および更新手続きを行うことができます。
- 平成 30 年 1 月時点で平成 29 年度会費が未納の方へ、再度請求書をお送りしております。3 月末日までにお納めください。

第 86 巻第 4 号予定

展望：奥島修二

小特集：農業農村工学における ICT 利用の可能性 (後編)

報文：圃場水管理システムを用いた ICT のフル活用による高機能水田地帯の構築：若杉晃介ほか

報文：ICT・ロボット化による用水路の水草刈り作業軽減の展望：山岡 賢ほか

報文：スマート農業と次世代型水管理のための技術開発：岩村和平ほか

報文：被災地の農業用水の安全・安心へ向けた ICT 活用の取組み：申 文浩ほか

報文：災害復旧過程における農業用水の塩分モニタリングの事例：友正達美

報文：AE 計測に基づく送配水パイプラインの非破壊モニタリング法の開発：鈴木哲也ほか

技術リポート

北海道支部：水稲直播用水を見込んだ用水計画の検討：福原保弘ほか

関東支部：山間部における補強土壁工の施工事例：野村佑紀

京都支部：FRPM 管の変状逆解析による変状要因の推定：森上浩伸ほか

中国四国支部：やまぐち発新製品「鑄田籠」の活用：吉富昌宏

九州沖縄支部：浦の川ダム水管理システムの管理実態に即した更新：田中秀樹

講座：農業農村整備のための生態系配慮の基礎知識 (4)

—水田・農業水利施設の魚類相とその保全— 皆川明子

私のビジョン：研究と社会実装のはざままで：折立文子

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成30年3月9日	水土文化研究部会	第15回研究会 Ⓟ	水土の“こころ”	東京都	86巻1,2号
平成30年9月4~7日	大会運営委員会	平成30年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	京都市	85巻12号 86巻1号
平成30年11月20~22日	農業農村工学会ほか	PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良2018 Ⓟ	Promoting sustainable paddy farming to achieve the SDGs	奈良市	86巻1,3号

平成30年度農業農村工学会大会講演会のWEB投稿受付を開始しました

すでにお知らせしましたように、平成30年度農業農村工学会大会講演会は、京都大学吉田キャンパスにおいて平成30年9月4日(火)、5日(水)、6日(木)の3日間および現地研修会を9月7日(金)に開催します。

大会講演発表の申込み(WEB投稿)の受付を3月1日より開始しました。

講演の発表申込みはWEB投稿となります。

詳細は学会ホームページの大会講演会
<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>
をご覧ください。

WEB投稿受付期間:

平成30年3月1日(木)~4月13日(金)

平成30年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について(再)

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

平成30年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページより申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申し込みください。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループで代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)。

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成30年度中(平成30年4月から31年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

4. 申請締切 平成30年4月13日(金)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
(公社)農業農村工学会 学術基金運営委員会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

PAWEES-INWEPF 国際会議 奈良 2018 (PAWEES & INWEPF International Conference 2018 Nara, Japan) の発表論文募集について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



国際水田・水環境工学会 (PAWEES) 国際会議が、11月20～22日の3日間、奈良県において、国際水田・水環境ネットワーク (INWEPF) と合同で開催されます。

PAWEES 国際会議では、発表論文を募集します。PAWEES 国際会議の日本国内での開催は12年ぶりですので、皆様ふるってご応募ください。

なお、今回のご案内は論文募集に関するものです。参加登録の詳細は、本誌次報でお知らせします。

1. 開催日 平成30年11月20日(火)～22日(木)
2. 場所 奈良春日野国際フォーラム 薨～I・RA・KA～
〒630-8212 奈良市春日野町101
TEL: 0742-27-2630 FAX: 0742-27-2634
3. テーマ Promoting Sustainable Paddy Farming to Achieve the SDGs

4. 募集論文トピック

Theme: Smart Management of Land, Water and Environment

- 1) Water and Soil Management
Keywords: Higher Production, Modernization of Irrigation, Artificial Intelligence, Information and Communication Technology, GIS, Remote Sensing, or related topics

- 2) Disaster Management and Adaptation
Keywords: Risk Management, Climate Change, Recovery from Disaster, Resilience, or related topics
- 3) Regional Resource Management and Rural Planning
Keywords: History and Culture, Smart Rural Development, Renewable Energy, Multi Functionality, Ecosystem Services, or related topics

5. 使用言語 英語

6. 発表形式 口頭またはポスター発表

7. 応募締切 平成30年3月31日(土)

8. 投稿要領

投稿はWeb投稿になります。PAWEES 2018 ホームページ <https://www.pawees-inwepf2018.com/>

にアクセスし、3月31日(土)までにAbstractを提出してください。

採否および発表形式の決定については4月30日(月)までにご連絡します。なお、Full Paperの提出期限は8月30日(木)です。

投稿の詳細はPAWEES 2018 ホームページをご覧ください。

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集について(再)

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格

- (1) 学生会員であること。(応募時に入会可。)
- (2) 年3回程度開催の委員会(東京都港区新橋にて開催)に出席できること。(旅費を支給します。)
- (3) E-mail, Web が使える環境にあること。
- (4) 指導教官の承認を得ること。

2. 任期 平成30年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可。

3. 募集人数 1名

4. 応募締切 平成30年3月30日(金)

5. 応募方法

下記①～⑧を記入の上、henshu@jsidre.or.jp までメールでお送りください。

- ①会員番号、②氏名、③大学名、④平成30年4月からの学年、⑤性別、⑥年齢、⑦承認を得た指導教官名、⑧連絡先メールアドレス

6. 問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

動画募集中！ こりゃ映像！ 2018 —ミニ動画コンテスト—

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

平成30年度のテーマは「私のかんがい施設遺産（仮）」です。「かんがい施設」とは、農地に水を配るために使われている施設で、ため池や水路、堰などです。私たちの周りには、歴史あるかんがい施設が今も変わらず使われ続けています。中でも、世界に誇るかんがい施設として27カ所のかんがい施設が「世界かんがい施設遺産」に登録されています。

今年のこりゃ映像では、そのような「世界かんがい施設遺産」を代表とする身の回りの歴史あるかんがい施設を対象に動画を募集したいと思います。身の回りの歴史あるかんがい施設の魅力を60秒に込めてYouTubeにアップロードしてください。

1. 平成30年度のテーマ 「私のかんがい施設遺産（仮）」
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 応募締切 平成30年7月31日（火）17時
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタグを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円

優秀賞（2作品）各1万円

8. アップロード方法

- ① 動画を作成する。
- ② YouTubeにアップロードする。
- ③ タグに3つのワード（jsidre2018、こりゃ映像、（テーマ未定））を入れる。
- ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
- ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（jsidre.eizo@gmail.com）宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL）

9. こりゃ映像2017 結果（テーマ：農業用水）

最優秀賞：【農業用水】人と自然の力

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科4年 山口裕里絵

https://www.youtube.com/watch?v=y5J1-Ox_S7A

優秀賞：私の町の農業用水

岩手大学農学部農学生命課程3年 瀧田耀平

<https://www.youtube.com/watch?v=owtqvopLgzA>

優秀賞：こりゃ映像2017 金沢工業大学 徳永研究室

金沢工業大学 徳永研究室修士1年 笹原弘道

<https://www.youtube.com/watch?v=uP0Ra69-BRo>

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

（ハンドブック＋用語事典＋初年度会費）

学部生 17,000円（15,750円）

大学院生 19,500円（16,750円）

②必携3点セット

（必携＋用語事典＋初年度会費）

学部生 7,000円（5,750円）

大学院生 10,000円（7,250円）

③2点セット

（用語事典＋初年度会費）

学部生 5,000円（3,750円）

大学院生 8,000円（5,250円）

（ ）内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先（公社）農業農村工学会 図書係

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとな

り、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動

に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌3月号掲載の問題は4月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成31年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成31年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真を基本に表紙を飾ることとします。なお、平成30年発行までの本趣旨を若干変更いたしましたので、趣旨を参考に魅力ある写真をふるってご応募ください。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は稲作農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業（水利）施設は、水田を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の食生活と文化などを支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然、地勢や地形に溶け込み、地域の文化を育み農村地域の景観を形成する重要な構成要素となっています。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

また、現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を

重ね施設の形態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物（国外においては日本の関連技術が適用された事例）の匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観の美しさを再評価いただいで、広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：先人たちや現代の技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美」

2. 対象巻号 学会誌第87巻（平成31年1～12月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます）。なお、六つ切り

は 203×254 mm, 四つ切りは 254×305 mm, 同ワイドは 254×356 mm, A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

春期 平成 30 年 6 月 30 日

夏季 平成 30 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りま

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 87 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 31 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆について

採用作品の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」としてご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが別途原稿

料をお支払いします。

10. 著作権・出版権

採用作品の著作権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 86 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第 86 巻第 4 号 農業農村工学における ICT 利用の可能性（後編）	公募終了
5 号 地域資源管理としての鳥獣害対策（仮）	公募終了
6 号 ストックマネジメントの現状と課題（仮）	公募終了
7 号 近畿の農村振興事業と京都支部賞研究紹介（大会特集号）	公募なし
8 号 湖沼の水環境と農業とのかかわり（仮）	4 月 10 日
9 号 明治 150 年と農業土木（仮）	4 月 20 日
10 号 SDGs と農業農村工学（仮）	5 月 25 日
11 号 中山間地域の将来を見据えて（仮）	6 月 25 日
12 号 水田圃場のフル活用（仮）	7 月 25 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたしま

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

第 86 卷第 8 号テーマ「湖沼の水環境と農業とのかかわり」(仮)

湖沼などの閉鎖性水域の水環境については、水質汚濁防止法やその特別法である湖沼水質保全特別措置法などに基づき、都道府県を中心に対策が講じられてきました。それは、流域下水道整備、工場からの排水規制、農業排水対策など、あらゆる側面からの努力の積み重ねでした。経済成長の鈍化の影響もあるとはいえ、河川の水質は改善されたという認識が広く持たれています。他方、湖沼などの水質改善は頭打ちであり、一部には近年悪化するケースも見られます。さらに、これまであまりみられなかった種類の藻の大量発生や、難分解性有機物の蓄積など、新たな課題も浮かび上がってきています。

農業にとって湖沼は主要な用水源であり、また、排水の排出先であるために農業が汚染源になっているという両面的かつ深

い関係にあります。このため、水環境の保全にかかる農業面での研究は長期にわたりなされてきましたし、循環灌漑など農業排水からの水環境への負荷を軽減する対策も種々実施されてきました。それらの最前線は今、どういう状況になっているのでしょうか。2018年10月には茨城県つくば市で第17回世界湖沼会議が開催されます。湖沼の水環境と農業とのかかわりについて改めて考えてみる良い契機にしたいと思います。

そこで、学会誌第86巻第8号では、「湖沼の水環境と農業とのかかわり」と題する小特集を組むこととしました。ダム湖やため池も含めた湖沼の水環境について、行政的な取組みや保全対策の先進的な事例、物質循環も含めた水環境保全にかかる研究の現状や新たな課題などに関する報文を広く募集します。

第 86 卷第 9 号テーマ「明治 150 年と農業土木」(仮)

平成 30 年(2018 年)は、明治維新から 150 年の節目にあたります。日本が近代国家の礎を築いた明治時代、農業水利の開発や、開墾、耕地整理などの土地改良事業も全国で展開され、日本社会の発展と近代化に大いに寄与しました。

この時代の大規模な農業基盤投資として、たとえば安積疏水や明治用水、手取川七ヶ用水などがあります。これらの水利・開墾事業は、現代の事業規模にも匹敵する大規模な開発事業でした。また日本の従来の水利技術に西洋の技術を取り入れ、現在の工学技術に連なる近代技術を駆使したのもでもありました。事業が行われた地域では、その後も長い年月にわたり各種事業が展開され、今に至る地域の持続的発展を遂げています。

学会誌第 86 巻第 9 号では、これら明治期の開墾事業や水利事業の社会的・経済的意義や、事業を現実のものとした当時の工学技術や農業技術を俯瞰するとともに、各事業の契機や時代背

景、事業達成の原動力、当時の事業制度などを点検します。日本は今、人口の減少と高齢化、経済の停滞や地域の衰退といった多くの課題を抱える状況にあります。同じく体制変換という大きな課題を有していた明治という変革期を振り返ることによって、変化する農業構造への対応など農政が直面する困難な課題を解決する方策を展望し、また歴史認識を通じて、持続的な農業生産に向けた今後の農業農村工学(農業土木)の社会的役割と意義を再確認する契機にしたいと思います。

「故きを温ねて新しきを知る(温故知新)」の言葉にあるとおり、近代化の過程を顧みるとともに「明治の精神に学び、日本の強みを再認識すること」(内閣官房「明治 150 年」関連施策推進室)を、農業農村工学の分野でたどるために、関連する報文を広く募集します。

第 86 卷第 10 号テーマ「SDGs と農業農村工学」(仮)

2001 年に国連で策定されたミレニアム開発目標(MDGs)は、発展途上国向けの開発目標として、2015 年を期限として 8 つの目標が設定されました。結果として、MDGs は一定の成果を達成しましたが、未達成の課題も残されました。

MDGs の後継として、2015 年 9 月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が全会一致で採択されました。SDGs(Sustainable Development Goals, 持続可能な開発目標)は、このアジェンダに記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標であり、先進国を含む国際社会全体の開発目標として、持続可能な世界を実現するための 17 のグローバル目標(分野別目標)と、169 のターゲット(達成基準)から構成されています。SDGs の重要なポイントは、格差問題、持続可能な生産や消費、気候変動対策など、先進国が国内で取り組むべき課題を含むため、発展途上国に限定しない

普遍的な目標と位置づけられている点です。

SDGs が設定するグローバル目標や達成基準の中には、水・衛生(目標 6)、インフラ、産業化、イノベーション(目標 9)、持続可能な生産と消費(目標 12)など、農業農村工学がこれまでも関与し、また今後も主導的に取り組むべきものが多数あります。

本小特集では、農業農村工学の分野が、① MDGs に対して過去どのような貢献をしてきたのか、② SDGs に対してどのような寄与が期待されているのかを俯瞰します。さらに、農業農村工学の分野の③今後の SDGs に対する取組みの具体化、④ SDGs に関わる人材育成、などについて、取組事例や課題・知見について、技術者・研究者・行政などのさまざまな立場からご紹介を頂き、情報共有のみならず、当分野の積極的な関与と今後の展開を図るための手がかりとなることを目的とします。学会誌掲載の報文として広く皆様から原稿を募集いたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016年7月から2018年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 14 カ国から Editor (20 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方、2016 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・ **Editors** 14 カ国から 20 名
- ・ **Advisory Editing Board** 29 名
- ・ **Chief Management Editor**
Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China
- ・ **Managing Editors**

Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2016 年 7 月から 2018 年 6 月まで) :

・ Dr. Yu-Pin LIN

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering, National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan, Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

日本混相流学会混相流シンポジウム 2018 の開催について

日本混相流学会は、1987年7月に設立され、今年31周年を迎えます。日本混相流学会混相流シンポジウム2018は、平成30年8月8日(水)～10日(金)の期間、東北大学(仙台市)で開催されます。本シンポジウムはオーガナイズドセッションと一般セッションから構成されており、研究成果とその討議を通じて、混相流の学理とその応用技術に関する最新の情報交換を行い、混相流研究のさらなる展開と参加者相互の活発な意見交換を目指しております。混相流は、固体・液体・気体を含む複雑流動現象であり、かつ自然界から産業プラントにまで広く見られる普遍的な流動現象です。オーガナイズドセッションとしては、混相流が広範囲の産業と密接に係わりがあることを踏まえ、環境、材料、機械、土木、原子力、化学、航空宇宙、などを横断的に含む内容を取り上げております。このように、混相流シンポジウム2018では、混相流関連の研究そして技術開発に携わっておられる研究者や技術者ならびに混相流を中心とした最新の科学技術の進展にご関心のある方々による多数の講演

発表と活発な意見交換を期待しております。どうぞ、奮っての講演発表そして参加のお申込みをお願い申し上げます。

1. **主 催** 日本混相流学会
共 催 東北大学
協 賛 (公社)農業農村工学会ほか33学協会(予定)
2. **開催日** 平成30年8月8日(水)～10日(金)
3. **会 場** 東北大学(宮城県仙台市)
4. **主要日程**
 - ・講演発表申込締切 3月16日(金)
 - ・講演原稿提出締切 6月11日(月)
 - ・参加事前登録締切 7月9日(月)

詳細は下記ホームページをご覧ください。
URL: <http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2018/>
5. **問合せ先**
日本混相流学会 混相流シンポジウム2018 実行委員会
E-mail: konsosymp@jsmf.gr.jp

第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)の開催について

1. **テーマ** 人と湖沼の共生
—持続可能な生態系サービスを目指して—
2. **開催日** 平成30年10月15日(月)～19日(金)
3. **場 所** つくば国際会議場
4. **公用語** 英語および日本語
5. **主 催** 茨城県、(公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)
共 催 国土交通省、環境省、農林水産省、土浦市、つくば市、かすみがうら市、銚田市、茨城町、水戸市、霞ヶ浦問題協議会、ラムサール条約登録湿地ひぬまの会
後 援 (公社)農業農村工学会ほか36団体
(平成30年2月5日時点)
6. **会議構成** 基調講演、政策フォーラム、湖沼セッション、霞ヶ浦セッション、分科会、ほか
7. **関連行事** サテライト会場環境関連行事、学生会議、オプションツアー、ほか
8. **発表募集**
 - (1) 分科会(口頭発表、ポスター発表)
日程:平成30年10月16日(火)、18日(木)
第1分科会「生物多様性と生物資源」
第2分科会「淡水資源の持続的利用」
第3分科会「湖沼の水質と生態系機能」
第4分科会「水辺地域の歴史と文化」

- 第5分科会「流域活動と物質循環」
- 第6分科会「科学的知見に基づくモニタリング」
- 第7分科会「生態系サービスの持続可能な利用に向けた対策・技術」
- 第8分科会「市民活動と環境学習」
- 第9分科会「統合的湖沼流域管理(ILBM)」
- (2) 霞ヶ浦セッション(ポスター発表)
日程:平成30年10月18日(木)
テーマ:霞ヶ浦の未来像について
応募は、それぞれ下記URLの発表募集要項をご参照の上、案内されるホームページでアカウントを作成し、締切までに抄録やプロシーディングス論文(指定様式あり)等の提出を行ってください。
応募締切:平成30年4月20日(金)
分科会URL:
<http://www.wlc17ibaraki.jp/technical.html>
霞ヶ浦セッションURL:
<http://www.wlc17ibaraki.jp/kasumigaura.html>
9. **その他**
参加登録、参加費、プログラムなどの詳細は第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)ホームページ(<http://www.wlc17ibaraki.jp/>)をご参照ください。